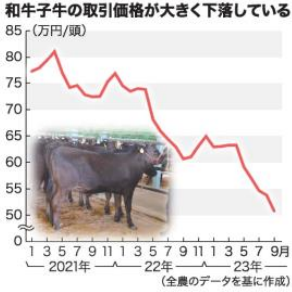


事業計画書

①団体名	千屋牛振興会
②事業名	GOGO千屋牛！応援事業
③テーマ区分	番号:11 目指せ日本一！和牛の生産振興
④補助回数	<p>*同一事業における補助回数(年数)について、いずれかにチェック</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>1回目 <input type="checkbox"/>2回目 (経過措置)</p>
⑤ 現状及び課題	<p>近年の円安等による価格高騰が原因で、和牛の生産コストは、飼料価格や光熱費等の高騰により下げられず、厳しい状況が続いている。</p> <p>景気不況も重なり、和牛肉の消費は落ち込んでおり、子牛、枝肉価格は安値で推移している。</p> <p>畜産業界にとって厳しい情勢が続く中、岡山県が誇るブランド牛である「千屋牛」を全国にPRするとともに、地産地消の理解醸成を深め、和牛肉の消費拡大を図ることは極めて重要である。</p> <div style="float: right; text-align: center;">  <p>和牛子牛の取引価格が大きく下落している (万円/頭)</p> <p>1 3 5 7 9 11 1 3 5 7 9 11 1 3 5 7 9月 — 2021年 — 22年 — 23年 — (全農のデータを基に作成)</p> <p>(日本農業新聞R5.10.5)</p> </div>
⑥ 事業目的	<p>「全国和牛能力共進会(以下、全共とする。)」は5年に1度開催され、和牛のオリンピックと称されるイベントで、ブランド牛をPRする絶好の機会である。令和9年9月に北海道での開催が決定されている。これに出品し、上位入賞することを目的に、先進地視察や調査研究を通じて、和牛の飼育技術の向上を図る。</p> <p>小中学校への出前授業を開催し、千屋牛の歴史や地産地消、命をいただくことの大切さ(食育)に対する理解醸成を図る。</p>
⑦事業内容	<p>※備中県民局補助対象事業について、位置づけ(狙い)、概要、受益者(対象者)、実施地域、実施方法などを記載すること</p> <p>1 全共に向けたブランド牛の飼育技術、PR方法の習得及び肉質改良に係る調査研究</p> <p>(1)先進地視察によるブランド牛の飼育技術、PR方法の習得</p> <p>目 的:有名なブランド牛の生産地を視察し、和牛の飼育技術やブランド牛肉の管理・PRの手法を習得する。</p> <p>対 象 者:千屋牛振興会員、全共出品候補者(高校生含む)、関係者等</p> <p>実施地域:県外ブランド和牛生産地 (候補地:兵庫県、島根県、鹿児島県)</p> <p>①ブランド牛先進地視察 ②全共対策発育技術習得の調査研究 ③全共特別区(農業大学校・高校の部)取組内容の調査研究</p> <p>(2)千屋牛のおいしさ改善のための飼料給与効果測定</p> <p>目 的:肥育牛のおいしさ(脂肪の質)を改良し、千屋牛の食味を向上させるとともに、全共肉牛の部での上位入賞を図るため、脂肪改善飼料の給与実証を実施する。</p> <p>対 象 者:千屋牛生産農家</p> <p>実施地域:新見市内</p> <p>2 千屋牛のPR及び地産地消に対する理解の醸成</p> <p>目 的:新見市内の小中学校で出前授業を実施し、千屋牛に対する認識を深め、命をいただくことの大切さや尊さ(食育)について学んでもらう。合わせて、給食に千屋牛肉を提供し、子どもたちに千屋牛のおいしさを知ってもらう。</p> <p>対 象 者:小中学生</p> <p>実施地域:新見市内</p> <p>*天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応</p> <p>新型コロナウイルス感染対策のため、研修等は厚労省のコロナ対策に</p>

	<p>係る通知等に沿って開催する。</p> <p>計画通りに実施することが困難な場合には、柔軟に対応し、できる限りの代替案を提案し、活動を実施するが、やむを得ない場合には事業の縮小・中止も検討する。</p>								
⑧事業の条件及び アピールポイント	<p>先進性、先駆性、独創性</p> <p>先進地視察及び現地実証を通じて調査研究することは、貴重な実績となり、全共対策に直結する。</p>								
	<p>備中地域への波及効果</p> <p>千屋牛のPR及び全共上位入賞に向けた取組は、将来、岡山県の知名度向上及び誘客を図ることができる。</p> <p>出前授業により、千屋牛だけでなく地域特産物に対する地産地消の重要性を理解するきっかけになり、県産食材の消費の増加が期待できる。</p>								
	<p>その他、団体の持つ専門性やノウハウ等</p> <p>地域内で、繁殖・肥育一貫生産に取り組んでおり、和牛子牛生産から肥育牛出荷まで一貫した飼育技術を有しており、千屋牛肉の流通・消費までの千屋牛ブランドが確立している。千屋牛のPRを通じて、地域の活性化を図ることができるのは当団体のみである。</p>								
⑨今年度の事業 による直接の結果 (アウトプット)及び その評価指標・評価方法	<p>1 全共に向けたブランド牛の飼育技術、PR方法の習得及び肉質改良に係る調査研究</p> <p>(1)先進地視察によるブランド牛の飼育技術、PR方法の習得</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>参加予定人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブランド牛先進地視察</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>全共飼育技術習得調査</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>全共特別区取組内容調査</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table>	内容	参加予定人数	ブランド牛先進地視察	30人	全共飼育技術習得調査	30人	全共特別区取組内容調査	5人
	内容	参加予定人数							
	ブランド牛先進地視察	30人							
	全共飼育技術習得調査	30人							
	全共特別区取組内容調査	5人							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数の達成度</td> <td>計画に対する割合</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>参加人数の達成度</td> <td>定員に対する割合</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	開催回数の達成度	計画に対する割合	100%	参加人数の達成度	定員に対する割合
評価指標	評価方法	目標							
開催回数の達成度	計画に対する割合	100%							
参加人数の達成度	定員に対する割合	100%							
<p>(2)千屋牛のおいしさ改善のための飼料給与効果測定 給与頭数 60頭</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給与頭数の達成度</td> <td>計画に対する割合</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	給与頭数の達成度	計画に対する割合	100%			
評価指標	評価方法	目標							
給与頭数の達成度	計画に対する割合	100%							
<p>2 千屋牛のPR及び地産地消に対する理解の醸成 新見市内小中学校における出前授業及び給食への千屋牛提供 授業受講小中学生数 2,000人(先生も含む)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加人数の達成度</td> <td>定員に対する割合</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	参加人数の達成度	定員に対する割合	100%			
評価指標	評価方法	目標							
参加人数の達成度	定員に対する割合	100%							
<p>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載</p>									
	<p>事業参加者</p>								

⑩今年度に期待される成果・効果(短期アウトカム)及びその評価指標・評価方法

※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載

1 全共に向けたブランド牛の飼育技術、PR方法の習得及び肉質改良に係る調査研究  
 (1)先進地視察によるブランド牛の飼育技術、PR方法の習得  
 ・ブランド牛の管理・PR方法について学ぶ。  
 ・全共優秀県の生産地を視察し、全共上位入賞に向けた和牛の飼育技術が向上する。  
 ・先進地視察で他県の取組を把握することによって、全共に対する取組意欲の向上につながる。

評価指標	評価方法	目標
視察参加による意識変容	参加者へのアンケート	「全共に対する取組意欲が上がった」の回答率80%

(2)千屋牛のおいしさ改善のための飼料給与効果測定  
 ・全共肉牛の部の審査項目である千屋牛のおいしさ(脂肪の質)向上に適した飼料給与メニューを確立する。

評価指標	評価方法	目標
おいしい千屋牛肉づくり	うま味成分値向上	新しい飼育メニューモデル作成

2 千屋牛のPR及び地産地消に対する理解の醸成  
 ・出張授業により千屋牛に対する認識を深め、命をいただくことの大切さや尊さについて学ぶ。

評価指標	評価方法	目標
出前授業による意識変容	子ども等へのアンケート	・「ご飯を食べるときには食材に感謝しようと思う」の回答率80% ・「千屋牛がどのようにしてわたしたちの食べ物になっているか分かった」の回答率80%

事業実施団体

1 全共に向けたブランド牛の飼育技術、PR方法の習得及び肉質改良に係る調査研究  
 (1)先進地視察によるブランド牛の飼育技術、PR方法の習得  
 ・視察研修の実施に係る事前準備段階から、和牛の飼育管理やブランド和牛肉PR等の先進事例について情報収集するようになり、より効果的な視察研修が開催でき、当地にフィードバックできるようになる。

評価指標	評価方法	目標
視察研修の開催回数	目標に対する実績回数	3回

(2)千屋牛のおいしさ改善のための飼料給与効果測定  
 ・全共肉牛の部の審査項目である千屋牛のおいしさ(脂肪の質)向上に適した飼料給与メニューが確立する。

評価指標	評価方法	目標
おいしい千屋牛肉づくり	うま味成分値向上	新しい飼育メニューモデル作成

備中地域

	<p>1 先進地視察によるブランド牛の飼育技術、PR方法の習得 ・視察で習得した飼育技術、PR方法等を備中地域の生産者や畜産関係者等に情報提供することにより、地域全体の育成技術、PR力強化が見込まれる。</p> <p>2 千屋牛のPR及び地産地消に対する理解の醸成 ・学校給食へ提供した千屋牛の地産地消の取組をマスコミ等で公開されることにより、他地域への刺激になり、同様な取組が拡大していくことが期待される。</p>
<p>⑪将来的に期待される成果・効果 (中・長期アウトカム)</p> <p>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載</p>	<p>事業参加者</p> <p>1 全共に向けたブランド牛の飼育技術、PR方法の習得及び肉質改良に係る調査研究 (1) 先進地視察によるブランド牛の飼育技術、PR方法の習得 ・千屋牛(登録商標)のブランド管理の適正化が図られる。 (2) 千屋牛のおいしさ改善のための飼料給与効果測定 ・全共肉牛の部のための有益な対策が期待できる。</p> <p>2 千屋牛のPR及び地産地消に対する理解の醸成 ・地域で育った本物のおいしい千屋牛を学んだり、試食したりすることで千屋牛の歴史とおいしさを参加者全体で共有できる。</p> <p>事業実施団体</p> <p>1 全共に向けたブランド牛の飼育技術、PR方法の習得及び肉質改良に係る調査研究 (1) 先進地視察によるブランド牛の飼育技術、PR方法の習得 (2) 千屋牛のおいしさ改善のための飼料給与効果測定 ・3年後の全共出品に向け、県の取組方針に沿い、優良県との人脈を生かし、飼育技術等を参考にした出品候補牛の作出ができる。</p> <p>2 千屋牛のPR及び地産地消に対する理解の醸成 ・消費者目線の千屋牛づくりの意識が醸成され、今以上に安全・安心を売りにした地域の特産化を目指した生産指導や流通消費対策に取り組むことができ、千屋牛の購買量が増加する。</p> <p>備中地域</p> <p>千屋牛の取組のモデルは、千屋牛応援団(生産者、関係者、消費者)を増やすことに繋がり、ひいては、各ブランド牛づくりの新しい取組への波及効果が生まれる。</p>
<p>⑫事業継続化に向けた取組及び事業展開の予定 (資金確保の見通し等)</p>	<p>視察研修を通じて得た、飼育管理技術を3年後に開催される全共での上位入賞に向けた取組(出品牛の作出、飼育技術の向上等)に生かす。 小中学校への出前授業を継続実施し、食育に対する理解醸成の取組を定着させる。 当振興会の運営費によって、研修会等の継続実施を目指す。</p>

<記入上の注意事項>

- 1 各項目は、簡潔かつ明瞭に記入してください。
- 2 「④補助回数」欄の2回目は、経過措置規定を適用した上で、令和5年度事業に採択された事業を令和6年度以降も継続して実施する場合のみ選択ができます。
- 3 「⑤現状と課題」欄は、事業実施の要因となる地域課題や問題点、社会的背景等について記入してください。なお、根拠となる統計データや当事者の声などがあれば、それも示してください。
- 4 「⑥事業目的」欄は、事業を通じて実現したいこと、目指す将来的な姿(社会、経済、生活、環境等)について、「⑤現状と課題」、受益者(対象者)等を踏まえて記入してください。
- 5 「⑦事業内容」欄は、課題解決や「⑥事業目的」における位置づけ(狙い)とともに、概要、受益者(対象者)、実施地域、実施方法などを事業項目ごとに具体的に記入してください。また、天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応(代替案の検討、事業縮小、事業中止等)についても併せて記入してください。なお、事業が複数の場合は、それぞれの事業ごとに内容を記入してください。
- 6 「⑧事業の条件及びアピールポイント」欄は、事業条件としている広域性又は先進性、先駆性、団体の持つ

様式第2号—2（第7条関係）

日 程 計 画 表

年月	事業内容	場所	規模等
2024年 7～8月	全共に向けたブランド牛の飼育技術、PR方法の習得及び肉質改良に係る調査研究 先進地視察によるブランド牛の飼育技術、PR方法の習得 1) ブランド牛先進地視察 2) ブランド牛先進地視察 3) 全共特別区（農業大学校・高校の部） 取組内容の調査研究	兵庫県 島根県 鹿児島県	30人 30人 5人
9月	千屋牛のPR及び地産地消に対する理解の醸成 新見市内小中学校における出前授業及び給食への千屋牛提供	新見市内小中学校	2,000人
8～1月	全共に向けたブランド牛の飼育技術、PR方法の習得及び肉質改良に係る調査研究 千屋牛のおいしさ改善のための飼料給与効果測定	市内肥育農場	60頭分
1月	活動実績書作成検討会、次年度事業計画検討会	会議室	5人
2月	活動実績書完成		

<記入上の注意事項>

- 1 事業実施年度の年間スケジュール案を記入してください。
- 2 「場所」欄は、想定される実施場所を記入してください（例：〇〇市文化センター、△△市内）。不明な場合、特定できない場合等は未記入で構いません。
- 3 「規模等」欄は、参加予定人数、印刷部数等数量的に想定される量を記入してください。不明な場合は未記入で構いません。